セコムが医療で暮らしを守る

超高齢社会が駆け足で近づいている。2025年には団塊の世代約800万人が75歳以上になり、
全世帯の4分の1以上が高齢者のみの世帯となる。社会全体で増大する老後の不安。
これに「安全・安心」を事業の中核に据えるセコムが立ち向かっている。
25年前から築いてきたトータルな医療、介護、健康のサービスを連携させ、地域で安心して暮らせる社会システムを構築する。
「防犯・防災だけでなく、あなたの健康まで守りたい」――セコムの挑戦を追った。

老後の地域安心拠点

「独りになって本当に寂しかった。でもここで皆と話をして元気になれたの」。3年前にご主人を亡くしたという89歳の女性の表情は穏やかだった。横浜市青葉区にあるセコム医療システムのデイサービスに通い始めて、多くの友達ができた。

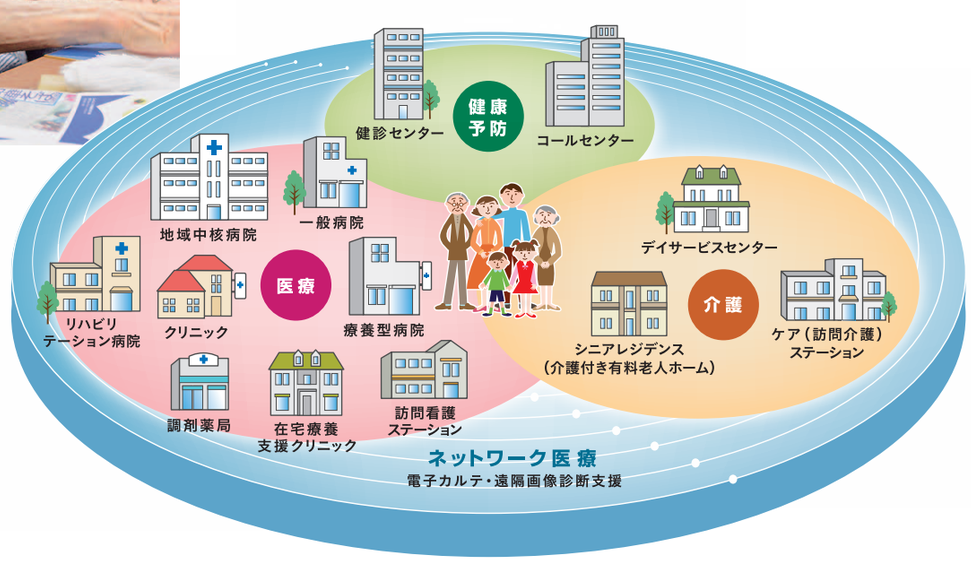
ここはセコムが「超高齢社会の地域拠点」を目指して13年11月にオープンした「セコムカレアあざみ野」。サービス付き高齢者向け住宅とデイサービスを併設し、将来は訪問看護ステーションや訪問介護拠点も開設し、サービスの厚みを増やしていく構想を持つ。

セコムが目指すのは「だれもが必要なサービスを地域のなかで切れ目なく提供できる」体制の構築。そのために在宅医療、提携病院、訪問介護、老人ホーム、AED（自動体外式除細動器）などを各地で積極的に増やしてきた。

カギを握る地域拠点として、14年には神奈川県鎌倉市に「セコム在宅総合ケアセンター鎌倉」を開設。今年4月には関連施設の集積が進む東京・久我山エリアに、顧客のニーズにワンストップで対応する新拠点「セコム暮らしのパートナー久我山」を設けた。自宅を空き巣や火災などから守る「セコム・ホームセキュリティ」の契約先を中心に65歳以上の高齢者から日常生活の困りごとの相談を何でも受け付け、対応するという。

デイサービス「セコムシニア倶楽部」で交流する高齢者

ヘルスケア
for
The Next



セコムがめざす地域医療連携モデル

医療・介護・健康のトータルサービス築く

セコムではお年寄りが抱える様々な心配事にも対応し、住み慣れた自宅や地域で長く暮らし続けられるようにすることを目指している。これは政府が目指す「地域包括ケア」＝高齢者医療を今の長期間入院型から地域全体で支える在宅型の仕組みにシフトする構想とも一致する。

セコムがこうしたサービスを展開できるのは、25年にわたり在宅医療、在宅介護、提携病院、シニアレジデンス、ネットワーク医療、健康・予防のそれぞれの分野で拡充を図り、基盤づくりに努めてきたことにある。特にこれらの「サービス」という分野で、これだけのトータルな展開は他に例を見ない独自の戦略である。

セコムのホームセキュリティの契約件数はすでに100万件を突破。さらに外出先で急病時に通報できる「マイドクタープラス」や、生活支援サービスなど、暮らしの「安全・安心」を提供する関連メニューを充実させてきた。医療・介護などのサービスと、セキュリティ、防災などと相互の連携を深め、「ALL SECOM（オール・セコム）」で「困ったときはセコム」と言われるような新しい社会システムの実現を目指す。今後、メディカル事業の分野でも「セコム」のブランドを広く浸透させられるか。超高齢社会に向けたセコムの挑戦が続く。

（特別企画室 企画委員・松永高幸）

セコムの提携病院・久我山病院

セコムカレアあざみ野

訪問看護サービス

遠隔画像診断支援サービス

セコム調剤薬局

セコムのメディカル事業

在宅医療
ご自宅で療養生活を送れるよう全国各地で訪問看護サービスと薬剤提供サービスを提供。訪問看護ステーションは全国に33カ所。セコム調剤薬局は3カ所。

在宅介護
訪問介護のケアステーションや在宅総合ケアサービス、デイサービスのシニア倶楽部、サービス付き高齢者向け住宅など、多様な在宅介護ニーズに応えるサービス。

提携病院
急性期からリハビリ・療養型まで様々な病院と提携し、地域に根差した高品質な医療サービスを提供。提携病院は18カ所、有床クリニック1カ所、インド1カ所。

シニアレジデンス
歳を重ねることを不安に感じることなく、安心・快適に暮らせる高齢者向け施設。健常者向けシニアレジデンス4カ所、介護付き有料老人ホーム10カ所がある。

ネットワーク医療
ご契約医療機関のCTやMRIの画像を専門医が遠隔読影し主治医をサポートする日本初の遠隔画像診断支援サービス「ホスピネット」や、電子カルテシステムを提供。

健康・予防
会員制の「セコム健康くらぶKENKO」や、「セコム・メディカルサポートセンター」による電話健康相談サービス、「セコムの健康食品」などのサービスを提供。

25年目からの挑戦

セコム医療システム 布施 達朗社長

セコムは1991年に民間で初めて訪問看護と薬剤提供の在宅医療サービスを始めました。92年には久我山病院（東京・世田谷）の経営に参画。94年には日本初の遠隔画像診断支援サービス「ホスピネット」を開始。在宅診療にも使えるクラウド型電子カルテサービスなど、いくつかの医療・介護関連サービスのパイオニアです。

セコムのメディカル事業は、ホームセキュリティのお客様の健康も守ろうというのが当初のきっかけでした。在宅医療のスタートで、通院・入院とは違う選択肢を患者様に提供できました。その後20年以上かけて、提携病院や訪問看護ステーション、介護拠点、高齢者向け施設などの施設や機能を全国に増やしてきました。セコムが目指すのは、高品質でトータルな医療・介護・健康のサービスです。

これからの日本の医療が在宅型にシフトするなかで、患者さんの在宅での療養をサポートする地域拠点が必要になります。だれもがいつでも気軽に立ち寄れる、地域に開かれた拠点が「地域包括ケア」の実現に欠かせません。今年4月に始めた「セコム暮らしのパートナー久我山」はその一つのモデルケースです。

医療・介護の世界でも今後は国際競争が激しくなるでしょう。日本国内で高品質のサービスを継続的に提供するためにも、世界を見据えた事業でなければなりません。14年にインド・バンガロールに病院を新設したのもそのためです。日本の優れた医療を展開するだけでなく、人材やノウハウの交流が相互の質の向上にもつながります。

セコムはセキュリティと同様、メディカル分野でも革新的なサービスを創造し、超高齢社会における「安全・安心」な社会システムを実現します。

信頼される安心を、社会へ。
SECOM
セコム株式会社
http://www.secom.co.jp/

広　告
企画・制作
日本経済新聞社クロスメディア営業局